

研究主題

家族や家庭生活に積極的にかかわり、 よりよい生活を創り出そうとする子どもの育成

1 主題設定の理由

(1) 社会の実態から学校教育に求められているもの

今日、子どもたちを取り巻く社会環境や家庭環境は多様化・複雑化し、子どもたちの生き方や生活の仕方、ものの考え方に大きな影響を与えている。中でも、少子高齢化や核家族化による家庭や地域での人間関係の希薄化や安全・安心への不安等は、日々の家庭生活に大きな変化をもたらしている。子どもたちの状況をみても、大人と変わらない生活時間等の生活習慣の問題、ゲームやテレビ等による遊びの変化、溢れるものや情報に取り囲まれた生活等によるコミュニケーション能力の低下や、健康への不安等多くの課題がみられる。

このような環境の中で、他人と協調しつつ自律的に社会生活を送るためには子どもたちに人間としての実践力、すなわち「生きる力」を育てていくことが求められる。その基盤になるのは、日常生活における様々な生活体験であるが、都市化の進行等による地域の連帯感の希薄化や家庭の教育力の低下とともに、子どもが日常生活の中で家事を分担したり、地域の人々といっしょに活動したりする機会の減少が子どもたちの「生きる力」をはぐくむ上で大きな壁となっている。

これまでも学校教育において「生きる力」をはぐくむ教育が推進されているが、平成20年3月に告示された学習指導要領においても、「生きる力」とは確かな学力（知）、豊かな人間性（徳）、健康・体力（体）のバランスのとれた力であり、その重要性が明示されている。

(2) これからの家庭科教育の方向性

生活様式や価値観が多様化する中で、次の世代を担う子どもたちには、生涯の見通しをもってよりよい生活を追求する力を身に付けていくことが求められている。家庭科は、生活を営む上で必要な衣食住や家庭生活について実践的・体験的に学び、実生活に生かすことができる教科であり、社会において自立的に生きる基礎を培う教科でもある。

新学習指導要領では、実践的・体験的な学習活動を通して、家族や家庭の役割、生活に必要な衣食住等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し、創造できる能力と実践的な態度を育成することを一層重視している。またその際には、他教科等との連携を図り、社会において自立的に生きる基礎を培うことを特に重視することとされた。

小学校の家庭科においては、生活を工夫する楽しさやものをつくる喜び、家族の一員としての自覚をもった生活を実感するなど、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を通して、自分の成長を理解し、家庭生活を大事にする心情をはぐくむこと等が重視されている。

(3) 児童の実態から

本県においても、子どもたちの日常生活や授業の様子等から生活経験不足を感じる場面が多い。県内の5年生、6年生を対象にした家庭科学習に関する調査（資料1）でも「包丁を使って切った

り、皮をむいたりできない、あまりできない」子どもや「ガスコンロを使えない、あまり使えない」子どもが約1割、「身の回りの整理整とんや清掃ができない、あまりできない」子ども、「くつ下など手洗いで洗たくができない、あまりできない」子どもが2割以上いる。これは「家庭で分担した仕事をしていない、あまりしていない」子どもが約3割という結果とほぼ一致している。

<資料1> 家庭科学習に関する調査（一部抜粋）（％）

調 査 項 目	ア	イ	ウ	エ
包丁が使える	49	41	7	3
ガスコンロを安全に使う	57	34	6	3
整理整とんや掃除ができる	32	44	20	4
手洗いで洗たくができる	36	40	17	7
分担した仕事をしている	28	43	18	11

ア よく（いつも）できる
 イ だいたい（ときどき）できる
 ウ あまりできない（していない）
 エ できない（していない）

現在の家庭生活では、生活があまりに便利になったり、簡略化されたりして、子どもたちに衣食住にかかわる知識や技能が身に付きにくくだけでなく、家族の苦労や知恵が見えにくくなっており、家族が協力して家庭生活を支え合っているということを実感しにくい。その上、自分のよさや家族、地域で役立つと実感する場も少なく、人とうまくかかわれない、自己中心的な行動がみられるなど社会性の発達や心身への影響も大きいと思われる。

家庭科学習や家庭での実践を通して、「できた喜び」や「役に立つ喜び」をしっかりと味わわせ、「もっと試してみたい」、「もっと工夫してみたい」、「家でもやってみよう」という意欲がもてるように、子どもたちの日常生活との結び付きを大切に教材の工夫や題材構成の工夫が必要である。また、実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習を展開する中で、基礎的な知識や技能を身に付けさせ、家族と共に生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てたい。

2 主題のとらえ方

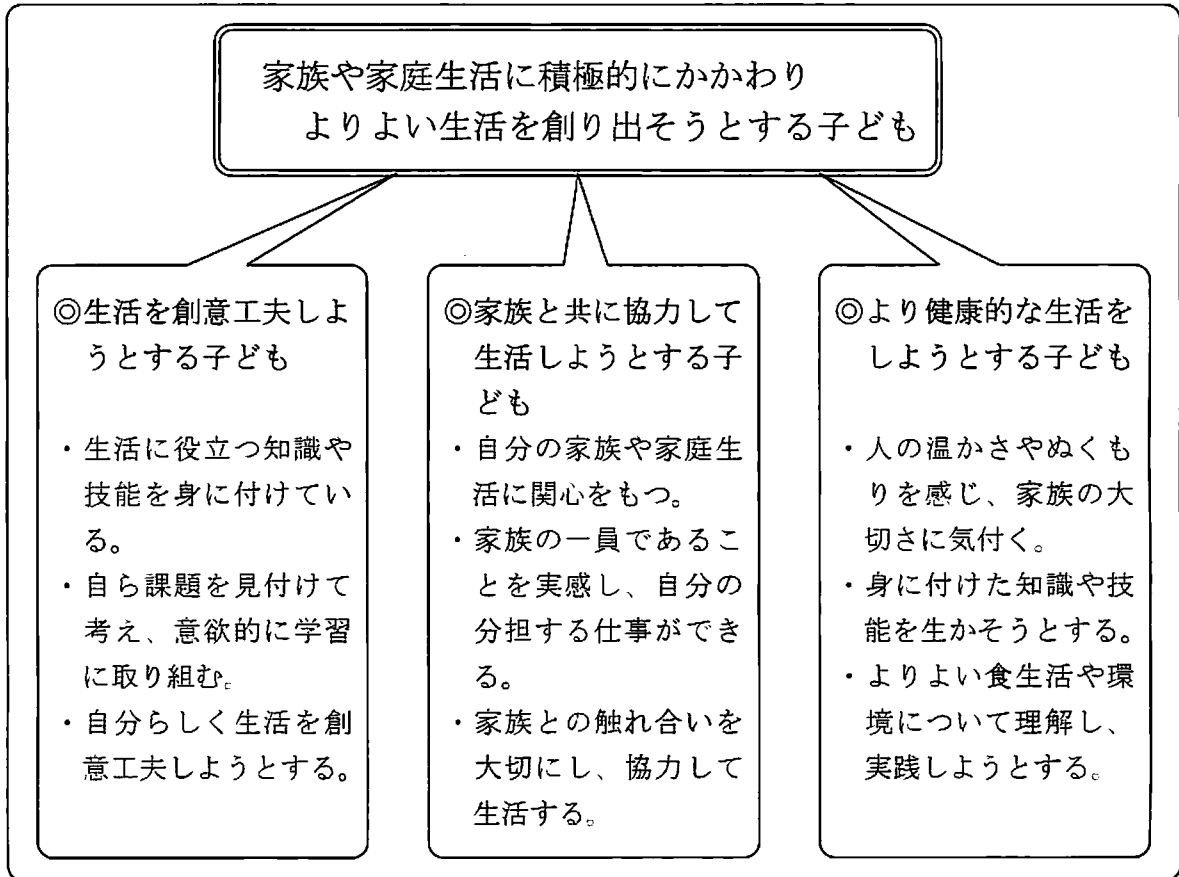
山口県小学校教育研究会家庭部では、平成16年度から研究主題を「家族や家庭生活に積極的にかかわり、よりよい生活を創り出そうとする子どもの育成」とし、子ども一人一人が主体的に家族や家庭生活にかかわり家庭生活への関心を深め、家族の一員として役に立つ喜びを実感しながら、よりよい生活を創り出そうとする子どもの育成をめざしている。

「家族や家庭生活に積極的にかかわる」とは、家族や家庭を空気のような存在として無意識に生活している子どもたちにとって、まず自分の生活を支えている身近な家族やもの、仕事などについて関心を高め、自分や家族がどのように生活しているかを見つめ直し、生活の営みを実感させることである。その中で自分の生活の課題に気付いたり、家族や自分の生活をよりよくするために自分なりに工夫したり、実践したりすることであるととらえている。

また、「よりよい生活を創り出そうとする」とは、自分の生活の課題を自ら考え、家庭科の学習で身に付けた知識や技能を活用して、生活をよりよくするために工夫し、実践することであると考える。そのためには、子どもたちに自分の生活を自分のこととしてしっかり見つめさせ、一人一人に願いをもたせ、実践的・体験的な活動を通して願いの実現に向けた問題解決的な学習を展開することが大切である。

家庭科で学習した知識や技能が自分の生活や身の回りの生活に活用できた喜びや満足感を味わえば、家族の一員としての自覚をもち、生活をよりよくしようとする意欲や能力、態度が育ち、以下に示すような子どもを育成することができると思う。

<図1> めざす子どもの姿



3 研究仮説

生活の中から課題を見付け、主体的な学習活動を展開し、学習内容の確かな定着を図れば、よりよい生活を創り出そうとする実践的な態度が育つであろう。

体験的・実践的な学習を通して自分の生活をしっかり見つめ、生活の中の課題を見付け、解決したいという意欲や必要感をもたせながら、課題を追求する学習を展開すれば、問題解決力や生活に生かす実践力が育つであろう。また、自ら試行錯誤しながら課題解決を図っていく学習の中で、基礎・基本に照らした評価や子ども自身による自己評価等の評価を工夫し、指導に生かせば、学習内容の確かな定着を図ることができると思う。その際、他教科や総合的な学習の時間との関連や家庭や地域との連携を図ることによって、身に付けた知識や技能を進んで自分の生活に生かし、よりよい生活を創り出そうとする実践的な態度が育つと考える。

4 研究内容

(1) 教材化

① 基礎・基本の明確化

小学校の家庭科は、社会において自立的に生きる基礎を培う教科であり、生涯にわたる家庭生活の土台を築く重要な役割を担っている。家庭科における基礎・基本は、家族や近隣の人々とのかかわりや「衣食住」に関する暮らしを健康で豊かなものにするために、必要不可欠な知識や技能はもちろん、関心・意欲・態度、思考力、判断力、表現力等である。新学習指導要領解説家庭編では、「基礎的・基本的な知識及び技能とは、生活における自立の基礎を培い、健康で自分らしい生活をするために必要であり、また、他の新たな知識や技能を獲得する基となるものである。」と述べられている。家庭科における基礎・基本は日常生活に必要なものであり、応用・発展できるものであり、実生活における工夫・創造につながるものである。この基礎的・基本的な知識及び技能は繰り返し練習することも大切であるが、日常生活に関連のある学習場面において、子どもが主体的に知識や技能を生かし、自分でいろいろ考えながら工夫する経験を繰り返す中で身に付くものである。

そこで、小学校の家庭科で確実に身に付けておかなければならない「基礎的・基本的な知識及び技能」を明確にして、内容のまとめりごとに題材の配列を考えた。

<資料2> 食に関する題材配列の例

学年	題材名	学習指導要領の内容	学習活動	基礎的・基本的な知識及び技能	材料例
5 学 年	○できる仕事をふやそう ・家族とお茶を楽しもう	(1)イ・エ (5)カ	○ガスこんろの安全な使い方やお茶の入れ方を知る。 ○包丁の安全な扱い方や果物の切り方を知る。 ○果物を切って盛り合わせ、お茶を入れる。	・ガスの使い方 ・こんろの使い方 ・包丁の扱い方 ・まな板の扱い方 ・果物の切り方 ・お茶の入れ方 ・美しい盛り合わせ方	緑茶・紅茶・ココア オレンジ・キウイ・リンゴ バナナ等
	○料理って楽しいね!おいしいね! ・一日の食事を調べよう ・簡単な調理をしよう ・なぜ食べるのか考えよう	(4)ア (5)ア・イ・ウ・オ・カ	○一日の食事について気付いたことを話し合う。 ○調理することの意味を考える。 ○調理するときの手順や調理に必要な用具について調べる。 ○卵や野菜のいろいろな調理方法を知る。 ○卵と野菜の調理実習の計画を立てる。 ○計画に従って調理実習、試食、後片付けをする。 ○体内での食品のはたらきを知る。 ○食事の楽しさを話し合う。	・食事の回数、食事内容等 ・食事は欠かすことができない営み ・洗う、切る、熱を加える、味を付ける等 ・計画、準備、調理、試食、後片付け、振り返り ・はかる、切る、混ぜる、洗う用具等 ・ゆでる、いためる、煮る等 ・野菜や卵の選び方 ・野菜の洗い方、切り方 ・ゆで方・いため方 ・盛り付け ・食品の3つのはたらき ・人間関係を豊かにする	ゆで卵 ゆで野菜のサラダ サラダソース おひたし いり卵等

学年	題材名	学習指導要領の内容	学習活動	基礎的・基本的な知識及び技能	材料例
6 学	○見直そう毎日の食事 ・どんな食べ物を食べているのかな ・ごはんのみそしるをつくろう ・おかずの必要性を考えよう	(4)ア (5)ア・イ・ウ・エ・オ	○1週間の食事ではどんなものを食べたか調べる。 ○いろいろな食品を組み合わせて食べていることを確かめる。 ○どんな食品が主食になっているか考える。 ○おいしいごはんについて話し合い、たき方を調べる。 ○おいしいみそしるのつくり方を調べる。 ○実習計画を立てる。 ○身じたく、準備をする。 ○ごはんをたいて、みそしるを作る。 ○盛り付け試食する。 ○後片付けをする ○自分の食事の栄養的なバランスについて考える。	・食品の組み合わせ ・主食の種類(ごはん、パン類) ・主食とおかず ・おいしいごはんの条件 ・米の洗い方、水の量、吸水時間、火加減、加熱時間、蒸らす時間等 ・実の種類と実の切り方 ・だしの種類と取り方 ・みその分量と入れるタイミング ・煮る順序 ・安全面と衛生面 ・正しい盛り付け、はしの持ち方、茶碗の持ち方等 ・1食分の食事の栄養バランス ・食品のグループ分け	ごはん おにぎり みそ汁(具を考える)等
年	○まかせてね! 今日のごはん ・食べ物の組み合わせを考えよう ・家族の喜ぶおかずを作ろう ・楽しい食事を工夫しよう	(1)エ (4)ア・イ (5)ア・イ・ウ・エ・オ・カ (7)イ	○バランスを考え、1食分の食べ物を選ぶ。 ○食事作りの計画を立てるとき必要なことを話し合う。 ○1食分の食事の献立を考える。 ○家族が喜ぶおかず作りの計画を立てる。 ○計画にもとづいて実習する。 ○できたおかずをみんなで見せ合ったり、試食し合ったりする。	・栄養のバランス ・家族の好みや色どり ・旬の食材 ・調理法 ・家族の健康 ・食べる時間帯 ・予算と買い物の仕方 ・食品の日付表示 ・いろいろな切り方 ・ゆでる、いためる、煮る ・時間配分や調理の手順 ・味付け ・配膳と盛り付け ・試食と後片付け	野菜のベーコン巻き マカロニナポリタン ポテトサラダ ちくわのピカタ ピーマンとじゃこの炒め物等

② 教材や題材の工夫

基礎的・基本的な知識及び技能は、ただ単に教え込みによって身に付くものではない。子どもの関心や生活経験、学習意欲等、実態を的確に把握し、育てたい資質や能力を明確にした上で、教材や題材を工夫することが重要である。子どもたちが知識や技能を使いこなすことにおもしろさを感じたり、自分にもできるという自信をもったりすることができるように、実生活との関連を重視し、学習の発展が期待できる教材や題材を工夫することが重要である。

また、教材を選ぶときには次のことに留意したい。

- 子どもにとって課題発見ができ、解決のために目的意識や見通しがもてる。
- 子どもや地域の実態に合っている。
- 体験や実践的活動をする時間や場所が確保されている。
- 基礎的・基本的な知識や技能が身に付き、子どもなりに工夫できるところがある。
- 結果をまとめたり、考察したりする場があり、学び合い、高め合う場がある。
- 他教科や総合的な学習の時間等との関連がある。
- 実践化ができ、発展性もある。

<実践事例1> ミシンの直線縫いの技能を定着させる教材の工夫
 ～スラッシュキルトづくり～

ミシンの直線縫いの基礎・基本の定着を図るための教材として、6年生で「スラッシュキルトづくり」を取り上げた。「スラッシュキルト」とは、重ねて縫った布に切り込みを入れ、切り口を起毛させる技法で、ミシンの直線縫いの単純作業の繰り返しではあるが、その繰り返しの中でミシンの直線縫いの技能を身に付けさせることができる。また、布を使って製作する上で基本となる様々な技能も身に付けさせることができる。スラッシュキルトは布の重ね方で全く雰囲気違った仕上がりになるので子どもたちの期待感も大きく、意欲的に学習に取り組める教材であると言える。また、キルトの面積を工夫することで個人差にも対応することができる。

この教材は、5年生でミシンの扱い方を経験した上で、6年生の「わたしの気持ちを伝えよう」で活用することもできる。写真のクッションとトートバックは6年生の作品である。

ここでは、5年生でミシンの使い方を学習し、ミシン縫いに興味や意欲をもっているときに直線縫いの技能を定着させたいと思って取り組んだ。

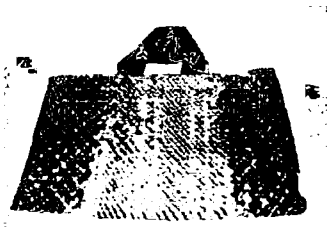
写真のようにスラッシュキルトを一部取り入れた小袋をつくることを目標にした。

スラッシュキルト部分の作り方と学習できる基礎・基本

主な学習活動	学習できる基礎・基本の内容
1 スラッシュキルト部分の大きさを考えて布を裁つ。	<ul style="list-style-type: none"> 布の名称（たて布、よこ布、みみ裁ち目、バイヤス）と特徴（のび） 布の裁ち方
2 4まいの布を重ねる。	<ul style="list-style-type: none"> 布目の仕組み（たて糸、よこ糸） 布目を揃える
3 バイヤス方向に縫う。 <ul style="list-style-type: none"> 45度の角度でしるしを付ける。 まち針を打つ。 ミシン糸を選ぶ。 下糸をまく。 縫う。 	<ul style="list-style-type: none"> アイロンのかけ方 まち針の打ち方（打つ方向や順番） 布色にあうミシン糸（下糸、上糸） 下糸の巻き方 上糸と下糸のかけ方と調節



小袋



トートバック



クッション

③ 題材構成の工夫 ～系統性や発展性を考えた題材の配列～

少ない授業時数の中で、基礎・基本を確実に定着させるためには、どのような題材にするかが重要である。子どもたちが意欲をもって取り組み、基礎的・基本的な知識や技能が定着し、しかも満足感や達成感が得られるように、連続性や系統性、発展性を考え、無理なく学習できるように題材構成を工夫することが大切である。

題材構成に当たっては、

- 子どもの実態を多用な方法でとらえる。子どもの思いや考えを大切にする。
- 内容相互の関連のあるものを組み合わせて、効果的に学習できるようにする。
- 問題解決的な学習過程を取り入れる。
- 個に応じた課題を追求する学習ができるようにする。
- 学び合いの場や振り返りの場を設け、実生活に生かせるようにする。

などが大切である。

また、基本的なものから応用的なものへ、簡単なものから複雑なものへ学習がしだいに発展していくように題材を構成することや、地域や学校の特色を考えたり、他教科や学校行事等との連携を図ったりすることも忘れてはならない。

④ 年間指導計画

2年間を見通した指導計画を作成するに当たっては、子どもの興味や関心、生活経験等の実態を考慮して、育てるべき資質や能力を明確にし、題材配列をする。その際、他教科等との関連や家庭・地域との連携を考慮し、少ない時間で効果的に学習ができるように工夫する。また、基礎的・基本的な知識や技能を明確にし、繰り返し学習や発展的な学習ができるようにする。2学年にわたって扱う内容については、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへとしだいに発展するように配列する。19ページの〈資料3〉は、各題材ごとに「身に付けさせるべき主な基礎的・基本的な知識・技能」と「他教科との関連・地域や家庭との連携」がよく分かるように工夫した2年間の指導計画の例である。

<資料3>他教科等の関連を図った2年間の指導計画例

学年	題材名	小題材	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	身に付けさせるべき 主な基礎的・基本的な知識・技能	他教科等との関連 地域や家庭との連携	
			ア:イ:ウ:エ	アイ	アイウ	アイ	ア:イ:ウ:エ:オ:カ	ア:イ	ア:イ				
5年	見つけよう! 家庭生活	家庭の仕事を見つめよう	◎:○:○:○								家庭科室の使い方 ガスコンロの使い方 包丁の使い方 お茶の入れ方 裁縫用具 の使い方 玉結び 玉止め なみ縫い 返し縫い ボタン付け	道徳「はじめてのアンカー」 ■家庭での実践	
		できる仕事をふやそう	◎:◎	○	○:◎				○	○			
		くふうして仕事を続けよう	○:○:◎:○										
	旬のおいしさ いただきます!	1日の食事を調べよう				○						調理計画 調理用具の使い方 計量の仕 方ゆでる調理 いためる調理 野菜の洗 い方野菜の切り方 片付けの仕方ごみの 分別 食品の3つの働き	社会「これからの食料生産と わたしたち」 理科「花から 実へ」 ■家庭でのインタビュー ■家庭での実践
		旬の野菜について調べよう									○	◎	
		簡単な調理をしよう					◎◎◎	○:◎					
		なぜ食べるのか考えよう			◎								
	ぬって! 使って! 楽しい生活	くらしの巾の布製品を探そう			○							製作計画 型紙 縫い代 まち針の打ち 方 印付け 布の裁ち方 縫う手順 ミ シンの使い方 糸の始末 アイロン	
		つくり方を調べよう			◎:○:○								
	くふうしよう! かしこい生活	楽しくつくってたくさん使おう			◎:◎								
		身の回りの物を見直そう								○			道徳「地球を救おう子ども会 議」 ■家庭での実践
	わたしたちのくらし とごみ	身の回りのごみを調べよう									○:○:○		社会「私たちの生活環境」 総合「下松の環境を守る人」 ■家庭での実践
ごみを減らす方法を考えよう									◎◎◎	◎			
リサイクルに挑戦しよう									◎	○			
めざせ! 買い物名人	生活を支えるお金									◎		社会「情報と社会」 総合「情報社会とわたしたち」 ■家庭での実践	
	商品の情報を読み取ろう									○:◎			
	買い方・選び方を考えよう									○:◎			
	これからの買い方を考えよう									◎:○:◎			
ふり返ろう													
6年	生活時間を見直そう		○:○:◎:◎								生活時間を有効に使う工夫	道徳「わたしのお父さん」	
	見直そう! 毎日の食事	どんな食べ物を食べているの				◎						1食分の食品の組み合わせ ごはんの炊 き方 みそしるの作り方 火加減 1食 分の栄養的なバランス	■家庭でのインタビュー ■家庭での実践
		ごはんのみそしるをつくらう					◎◎◎	○:◎◎◎					
		おかずの必要性を考えよう				◎							
	つくろう! さわやか生活	暑い季節を気持ちよく過ごそう									◎		理科「生物とかんきょう」
		衣服の着方を考えよう		◎									
	めざせ! 洗たく名人	洗たくのくふうを調べよう		◎								課題追究の方法 洗たくの仕方(品質表示 ・取り扱い表示の見方 洗たくの手順)	■家庭でのインタビュー ■家庭での実践
		洗たくをしよう		◎									
	生活に役立つ物をつ くらう	つくり方を調べよう			◎							製作計画 型紙 縫い代 印付け 縫う 部分にあった縫い方 ミシン アイロン	
	なんでもおいしく クッキング!	役立つ物をつくらう			◎:◎								
		1食の組み合わせを考えよう				◎							保健「病気の予防」 総合「給 食から環境を考えよう」 ■家庭での実践
		喜ばれるおかずをつくらう					◎◎◎	◎◎◎		○	○		
楽しい食事をくふうしよう	楽しい食事をくふうしよう		◎										
	季節に合うくらしを考えよう			○						○			
くふうしよう! 季節に合うくらし	快適な住み方をくふうしよう									◎	◎		
	快適な住み方をくふうしよう												
伝えよう!	ふり返ろう	○:○:○:○											
ありがとうの気持ち	ふれ合いを広げよう	○:○:○:◎										■家庭での実践	

(2) 主体的な学習活動

家庭科の学習は毎日の暮らしに焦点を当てているので、家庭生活の状況や生活経験の違いによって、一人一人の子どもの生活に対する関心や課題が異なる。それぞれの子どもが自分の生活の中から見出した願いや課題を主体的に追求するような個別学習が基本であるが、課題を共有して互いに意見や考えを交流したり、発表し合ったりして学び合うことも大切である。学び合うことで自分と違う考えがあることを知り、違う視点でものを見たり考えたりすることができ、自分の考えを深めることができる。いずれにしても家庭科においては、自分の願いや課題を明確にし、実践的・体験的な活動を通して、課題を追求する問題解決的な学習が基本である。

① 実践的・体験的な活動

生活環境や生活習慣の変化により、生活感の希薄な子どもたちが増えている中、家庭生活への関心を高め、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるには、実践的・体験的な活動を通して、実感を伴った具体的な学習を展開することが効果的である。実践的・体験的な活動には、五感を使う活動、製作や調理等の実習、実験、直接体験、調査、インタビュー、資料収集や資料作成、テレビ、ビデオ、パソコン等の機器の活用、ディベート等がある。目的をもって観察する、触れる、聴く、味わうなどして確かめたり、調べたり、集めた資料を基にして自分なりの方法で試行錯誤したりすれば、楽しく実感を伴った学習をすることができる。その上、自分の生活に直結した内容を取り上げ、実感を重ねながら学習を展開していけば、実践したり、工夫したりすることの楽しさや喜びを味わうことができる。また、学習したことを生活に生かしてみたい、役立たせてみたいという意欲をもつとともに、自分の生活を大切にする気持ちも育ってくる。そして、家庭科の大きなねらいである「家庭生活や家族を大切にする心情」をはぐくむことにもつながる。

② 問題解決的な学習

家庭科の学習は毎日の暮らしを対象にしており、意欲をもって楽しく学習することができる教科である。学習したことが自分の生活に役に立つと実感すれば、「もっとこうしたい」、「今度はこうしてみたい」と新たな課題をもって、意欲的に学習に取り組むことができる。家庭科の学習では、どれだけ多く基礎的・基本的な知識や能力を身に付けたかだけでなく、それをいかに生かすことができるか、実生活の場で実践できるか、さらによりよい方法を自分で工夫しようとするかが重要である。そのためには学習過程を工夫し、実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習を展開し、進んで身近な生活の課題を解決する能力や家庭生活をよりよくしようと工夫する能力、実践的な態度を育てていかなければならない。問題解決的な学習過程は次のような流れである。

ア 自分の暮らしとじっくり向き合い、生活を見つめ直し、願いや課題をもつ。(課題発見)

イ その願いや課題を解決するためにはどうしたらいいかを自分なりに考え、解決の方法を見付ける。(解決の見通し)

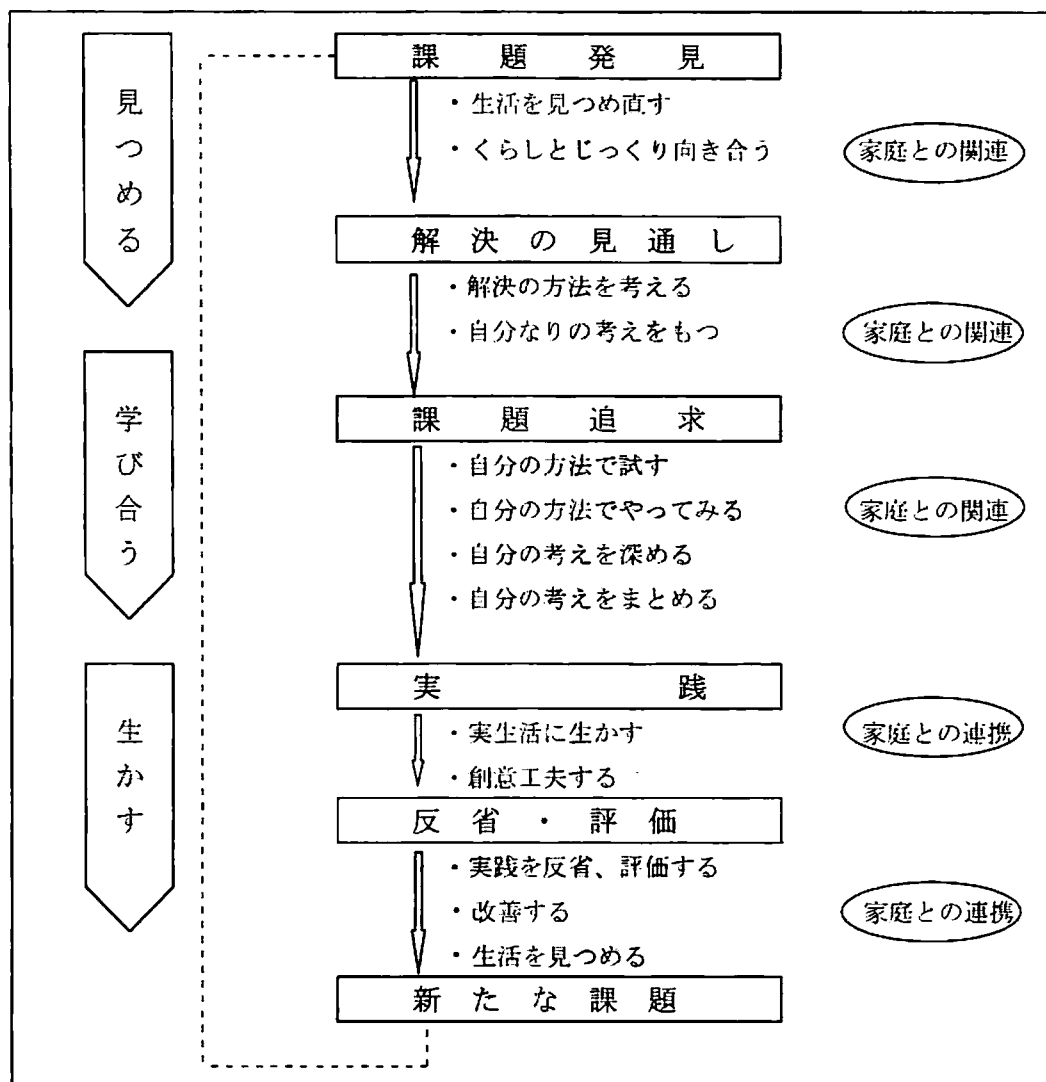
ウ 自分なりの方法で試したり、やってみたりしながら、自分の考えを深める。また、友達とも交流しながら、よりよい方法を見付ける。(課題追求)

エ その方法を生かして、創意工夫しながら生活の中で実践する。(実践)

オ 生活の中での実践を反省し、評価する。(反省・評価)

カ 新たな願いや課題をもつ。(課題発見)

<図2> 問題解決的な学習過程の工夫



③ 家庭や地域との連携

実践的な態度の育成をめざすためには、家庭や地域との連携が必要である。学校や地域の特色を生かせる題材や教材を工夫することによって、家庭や地域の理解を深め、協力を得ることができる。特に子どもが積極的に家庭生活の中で実践するためには、家庭の協力が不可欠であるから、各家庭に対して、家庭科学習への理解を深め、家庭の協力が得られるような工夫が大切である。

家庭との連携を図ることによって、次の2点から学習を深めることができると考える。

- 子ども一人一人の家庭生活について理解を深めることができる。

子どもたちが家庭でどのような手伝いをしているかなど、家庭での様子を知ることができ、教師は学習の課題を見付けることができる。また、子どもたちが家庭で実践したときの方法や工夫、苦労等も知ることができ、実感の伴った学習をすることができる。

- 家庭での実践や家庭科学習への協力が得やすくなる。

保護者に家庭科の学習内容や学習の様子を知らせることで、家庭科学習への関心が高まり、家庭での実践へつなげることができる。また、家庭科学習に必要な準備物や家庭での実践についての協力が得られる。このように、保護者の関心が高まれば子どもの家庭での実践意欲も高まる。

これらのことから、家庭との連携を図ることにより、学習の質をより高いものにすることができると言える。

家庭や地域との連携方法には、学級だよりや保護者や地域の方による授業参観や授業への参加等がある。

<資料4> 学級だより

学級だよりは、授業の進度に合わせて、必要な情報を載せることができる。また、授業の様子や子どもの感想、保護者の感想等、様々な情報を伝えることができるし、学級だよりの方法や内容を工夫することによって、双方向性をもたせることができる。6年生の学級だよりに次のような内容を掲載した。

学級だよりの内容	家庭科学習の題材名
おこめの吸水実験の結果と感想	「見直そう！毎日の食事」
ごはんのみそしるづくりの様子・家庭実践のお願い	「見直そう！毎日の食事」
家庭での実践の感想（資料4-1）	「見直そう！毎日の食事」
洗たくについての実験の結果と準備物のお礼（資料4-2）	「つくろう！さわやか生活」
夏休みの家庭での調理実践協力へのお礼	
家庭でのインタビューと食材準備のお願い	「心も体も元気になる料理をつくろう」
試し調理の様子と食材準備のお願い	「心も体も元気になる料理をつくろう」
調理実習の様子と感想、お礼	「心も体も元気になる料理をつくろう」


<資料4-1>

あおぞら
6年2組 学級だより
平成18年5月17日
No.6

家庭科の授業から

家庭科では、「見直そう！毎日の食事」という学習をしています。先日、食べ物の調への御協力ありがとうございました。現在は、「ごはんのみそしるづくり」の調理実習を行っています。ごはんのみそしるづくりは、おこめを洗うという作業があります。

ごはんのみそしるは、おこめを洗うという作業があります。洗ったおこめは、お米の表面のぬめりを洗い落とすことで、お米が吸水しやすくなります。洗ったおこめは、お米の表面のぬめりを洗い落とすことで、お米が吸水しやすくなります。



今日は、吸水実験をしました。お米を洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とすことで、お米が吸水しやすくなります。洗ったおこめは、お米の表面のぬめりを洗い落とすことで、お米が吸水しやすくなります。

A おこめが少なくて、お米が乾いてくる。	B おこめが多くて、お米が乾かない。
----------------------	--------------------

お米の吸水実験の結果、お米が吸水しやすくなるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾いてくるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾かないという結果が得られました。

【お米の吸水実験の結果】

- ・お米が少なくて、お米が乾いてくるという結果が得られました。
- ・お米が多くて、お米が乾かないという結果が得られました。
- ・お米が少なくて、お米が乾いてくるという結果が得られました。
- ・お米が多くて、お米が乾かないという結果が得られました。
- ・お米が少なくて、お米が乾いてくるという結果が得られました。
- ・お米が多くて、お米が乾かないという結果が得られました。

<資料4-2>


あおぞら
6年2組 学級だより
平成18年7月14日
No.8

「なるほど！」を体験により感じる授業

先日、家庭科で洗濯の実験をしました。お米を洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とすことで、お米が吸水しやすくなります。洗ったおこめは、お米の表面のぬめりを洗い落とすことで、お米が吸水しやすくなります。

1. 洗濯機の手洗いは、どちらの方向が正しいか。
2. 洗ったお米をそのままお米の表面のぬめりを洗い落とす。洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。
3. お米を洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。
4. 洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。
5. 洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。洗ったお米を、お米の表面のぬめりを洗い落とす。

1～5の実験の結果、お米が吸水しやすくなるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾いてくるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾かないという結果が得られました。



これは、1の実験の結果です。お米が吸水しやすくなるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾いてくるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾かないという結果が得られました。

実験の結果、お米が吸水しやすくなるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾いてくるという結果が得られました。お米が吸水しやすくなることで、お米が乾かないという結果が得られました。

④ 他教科等との関連付け

家庭科の学習は、家庭生活そのものを学習の対象としており、家庭生活にかかわりの深い人やもの、環境等との関連を図りながら、生活を総合的にとらえて教材化している。身近な生活の中から課題をもち、自分なりの方法で試行錯誤し、よりよい生活のために創意工夫するという学習であるため、特に総合的な学習の時間等との関連が深い。また、新学習指導要領解説家庭編では、生活をよりよくしようとする態度や家庭生活を大切にする心情をはぐくむことは、家族を敬愛し、楽しい家庭をつくり、家族の役に立つことをしようとすることにつながることを示されており、道徳との関連性をもって指導することもこれまで以上に重要となる。

他教科や総合的な学習の時間等で身に付けた知識や技能を家庭科で生かすことや、家庭科での学習を他教科等に生かすことは、双方の学習を広げ、深めることから効果的である。そのためには、19ページの2年間の指導計画のように、指導計画の中に他教科や総合的な学習の時間等との関連を明記することや教材の工夫、題材配列の工夫が大切である。

(3) 指導と評価

① 基礎・基本の定着と指導の工夫

日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能は、製作や調理等の実習、観察、実験等の実践的・体験的な活動を通じた具体的な学習を展開する中で身に付く。単に方法だけを取り出して練習したり、訓練したりしても実生活に生かすものにはなりにくい。日常生活に関連のある学習場面を設定して、自分で考え工夫しながら試行錯誤する経験を繰り返すことによって、確かな知識・技能として身に付く。学習の過程で「分かる」、「できる」楽しさを感じたり、自分にもできるという喜びや自信をもつことができれば、生活に生かそうとする意欲が高まり、より確実な知識・技能として身に付き、生活の場で活用できる力となる。

指導に当たっては、意欲的に学習に取り組めるように、子どもにとって魅力ある教材や題材の工夫、家庭生活と関連づけた題材構成の工夫が大切である。また、個に応じた学習はもちろん、ペア学習やグループ学習を適宜取り入れるなど学習形態の工夫や、指導体制の工夫をすることで学習を広げ、深めることができる。さらに、家庭や地域との連携や他教科との関連付けも大切である。

② 指導に生かす評価の工夫

家庭科学習の目標を達成するためには、日々の授業の目標を明確にした評価計画を作成する必要がある。〈資料5〉は、毎時間の目標を組み込んだ評価計画の例であるが、このような評価計画に従って評価を行い、子どもの学習状況を的確に把握することが大切である。特に学習過程において、子どものよさや可能性をその都度評価したり、学びの深さを把握したりしながら、本時や次時の指導に生かし、一人一人の個性を引き出すことで、きめ細かな指導ができる。基礎的・基本的な知識や技能が確かな力として身に付いているかどうかは、基礎・基本に照らし合わせて細かくチェックするだけでなく、子ども自身による自己評価や子ども同士の相互評価を取り入れるとよりの確に把握できる。また、自己評価や相互評価は、子どもにとっても自分の学習状況を確認したり、互いのよさを認め合ったりすることができ、満足感や達成感を味わうことができる。

学習の様々な場面で多面的な評価を行い、すべての子どもが目標を達成できるようにその評価を指導に生かしたい。なお、家庭科では学んだことを自分の生活で実践することが重要であるため、家庭での実践等についても状況を把握して指導に生かすことが大切であると考える。

<資料5> 指導と評価の計画

くふうしよう！ かしこい買い方・使い方		【関】家庭生活への関心・意欲・態度		【創】生活を創意工夫する能力	【技】生活の技能	【知】家庭生活についての知識・技能
		本 題 材 の 評 価 規 準				
		身の回りの物や金銭の使い方に関心を持ち生活に生かそうとしている。		物や金銭の使い方を考えたり、工夫したりしている。		目的に合わせて、適切に購入することができる。
次	時	目 標	学 習 活 動 に お け る 具 体 的 な 評 価 規 準			
第 一 次	1 (30)	買い物の経験を話し合うことを通して、金銭の使い方に関心をもつことができる。	自分の生活とのかかわりから、物や金銭の使い方に関心をもっている。 (発言・ワークシート)			
	2 (45)	計画的な買い物について知り、目的に合った品物の選択・購入の仕方について考えることができる。		自分の生活とのかかわりから、物や金銭の使い方を考えたり、工夫したりしている。(発言・ワークシート)		目的に合った物の適切な買い方について理解している。(発言・ワークシート)
第 二 次	1 (60)	野菜を買うときに大切にしたい視点について話し合うことを通して、賢い消費者としての食品の選択・購入の仕方を追求することができる。		家族の生活や目的に合った物の選び方や買い方について考えている。 (発言・ワークシート)		目的に合った物の選び方について理解している。(発言・ワークシート)
第 三 次	1 (45)	家庭での買い物実践を報告し合うことを通して、これからの生活に生かせることを考えることができる。		目的に合った適切な買い物ができるように、自分なりに工夫している。 (発表・ワークシート)	目的に合った適切な購入をすることができる。(発表・ワークシート)	
	2 (45)	購入した材料の有効な使い方について話し合うことを通して、エコクッキングへの意欲を高めることができる。	物の選び方や買い方に関心をもっている。(発言・ワークシート)			物や金銭の有効な使い方を理解している。(発言・ワークシート)

③ 評価方法の工夫

指導と評価の計画をもとに、一人一人の学習状況を的確に把握し、学びの過程を評価することは、学習の質や指導力の向上のために大切である。

教師による評価には、子どもの実態や学習後の変容を把握するための事前・事後の意識調査、子どもの姿による評価（発言、発表、話し合い等）や学習の様子による評価（実習、観察・実験、作業等）、作品やノート、レポート、ワークシート、テスト等がある。これらの評価方法を「関心・意欲・態度」、「創意工夫」、「生活の技能」、「知識・理解」の4つの観点や学習活動等に応じて工夫し、個別指導や次時の授業づくりに生かすようにする。〈資料6〉は、観点別に見取りやすい評価方法を考え、まとめたものである。

また、子どもによる評価には、学習カード、自己評価カード、チャレンジカード等による自己評価やアドバイスカードや評価カード等による相互評価がある。〈資料7〉はその一例である。

評価したい内容によって効果的で的確な評価方法を活用することが大切である。

〈資料6〉 観点別評価方法

評価方法 \ 観 点	関心・意欲・ 態度	創意工夫	生活の技能	知識・理解
事前・事後の意識調査	◎		◎	◎
学習活動の観察	◎	○	○	○
製作過程の観察	○	◎	◎	○
完成作品の評価		○	◎	
製作計画・実践記録等のチェック		◎	◎	○
学習カード・進捗表のチェック	○	◎		○
自己評価	○	○		○
相互評価		○	○	
発問への応答	○			○
ノートの点検	○	○		○
ペーパーテスト			○	◎
学習後の感想のまとめ	○	○		○
その他				

<資料7> 学習カードや振り返りカードによる自己評価

学習カード（例）

今日の自分の目標
今日の学習でつきたい力など ----- ----- -----
できるようになったことやうまくいかなかったことなど ----- ----- -----

学習カードを使って評価すると、毎時間の子どもの意識の流れや学習の様子をつかむことができ、個別の支援に生かしたり、次時の学習計画を立てたりすることができる。

また、子ども自身も学習カードに記入することで、できるようになったことに満足感を感じたり、次はがんばろうという意欲をもったりすることができる。

授業の最後等には、基礎・基本に照らし合わせた振り返りカードを活用し、子どもたちに自己評価をさせる。それを全体の場で認めたり、個別支援に生かしたりして、子どもたちの学習意欲や学習効率を高め、次時の学習へつなげる。

振り返りカード（例） ～ミシンの直線縫い～

今日の学習に、本気で取り組みましたか。	本気でなかった とても本気だった
能率的に進めるために作業を工夫しましたか。	能率的でなかった とても能率よかった
ミシンの使い方は、正しくできましたか。	正しくできなかった 正しく使えた
ミシンの直線縫いがきちんとできましたか。	きちんとできなかった きちんとできた
縫い目と縫い目の間隔はそろっていますか。	そろっていなかった よくそろっていた